

単元	単元毎の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見えないだけ 1時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。		進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
アイスプラネット 4時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。	「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係を人物相関図にまとめている。	積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
聞く]問いを立てながら聞く 1時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →提案された意見とそれを裏付けるための根拠を区別して捉えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →提案内容を理解し、その要点を的確にメモしている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →意見と根拠の結び付きに注意して聞き、疑問点や確認したい点を明確にしている。 	進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとしている。
季節のしおり 春	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
枕草子 [書く]自分流「枕草子」を書こう 3時間（読②書①）	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。

		→生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。	
情報整理のレッスン 思考の視覚化 1時間	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ →問題1～3に取り組み、情報どうしの関係を図で表している。		学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。
多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る 5時間	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べてみたい職業を決め、知りたいことに適した方法を考えて、情報を収集している。また、収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを取捨選択している。	粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。
漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう1 1時間	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
クマゼミ増加の原因を探る 4時間	話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ →文章が六つの部分できていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。	積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
思考のレッスン1 具体と抽象 1時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →問題1, 2に取り組み、複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。		学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。

<p>魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする 5時間</p>	<p>言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手が自ら動きたいと思えるような言葉や表現を用いてプレゼンテーションをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 	<p>粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。</p>
<p>漢字に親しもう2 1時間</p>	<p>第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
<p>文法への扉1 単語をどう分ける？ 2時間</p>	<p>単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。</p>		<p>今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。</p>
<p>メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう 「自分で考える時間」をもとう 3時間(読①書②)</p>	<p>情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →情報メディアの特徴を、表や図などにまとめている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →適切な情報を得るためには、メディアの特性を捉え、発信者や配信日時、その文章が書かれた目的などを確認することが重要であると気づいている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →同一の話題について書かれた複数の情報メディアを比較し、それぞれの特徴について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。(B(1)ア) 	<p>粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。</p>

		→目的や状況に応じて、どのようなメディアで情報を集めたらよいか、考えている。	
短歌に親しむ 短歌を味わう [書く] 短歌を作ろう 4時間 (読②書②)	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また、情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 	進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
言葉の力 2時間	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
言葉1 類義語・対義語・多義語 2時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。		今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
言葉を比べよう もっと「伝わる」表現を目ざして 1時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。		今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。

読書を楽しむ 1時間	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読んでいきたいかを考えている。		本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま 読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 1時間	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、他の翻訳作品を楽しもうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →これまでの読書生活を振り返り、豊かにするためにできることを具体的に考えている。 	進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。
季節のしおり 夏	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
盆土産 4時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べている。	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。	粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
字のない葉書 3時間	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読んでいる。	「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 1時間	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。	・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。

		→話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。	
表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 3時間	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →相手や目的に応じて、敬語を適切に使って通信文を書いている。 	<p>「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。</p>	積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
[推敲]表現の効果を考える 1時間	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。	<p>「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>→読み手の立場に立って手紙を推敲し、気持ちがいよ伝わるような表現に書き改めている。</p>	粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
言葉2 敬語 1時間	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。		今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3 1時間	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりしている。 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →同音異義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 		学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。
モアイは語る ——地球の未来 4時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、 	粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。

		自分の考えを広げたり深めたりしている。 (1)オ →自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。	
思考のレッスン2 根拠の吟味 1時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →問題1, 2に取り組み、根拠を吟味している。		今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く 4時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。	「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。	】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
漢字に親しもう4 1時間	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
[討論]異なる立場から考える 1時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →賛成・反対それぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実から、どんな意見を述べるのかを考えている。	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →同じ情報を基にしたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気づいている。	進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。
立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する 4時間	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →説得力のある根拠と共に、意見をまとめている。	・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 (A(1)ア) →地域や社会で話題になっていることの中からテーマを決め、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話している。	進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。

音読を楽しもう 月夜の浜辺 1時間	】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。	「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
季節のしおり 秋	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語 1時間	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取っている。		進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。
扇の的 —— 「平家物語」から 3時間	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。	進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
仁和寺にある法師 —— 「徒然草」から [書く] 人物の特徴を捉えて論じよう 3時間 (読②書①)	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →現代語訳や語注などを手掛かりにして、法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解している。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →法師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。	積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
漢詩の風景	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世	「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比	進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿

3 時間	界に親しんでいる。(3)ア) →漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。	較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。	って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。
君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 4 時間	<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者が、どのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「かっこいい。」(抽象)と述べているのかを理解している。 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。 	粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く 2 時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品の魅力を伝える言葉にはどんなものがあるかを考え、より効果的な語句や表現を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →作品の魅力が伝わるよう、作品に描かれている様子を具体的に説明している。 「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →友達と鑑賞文を読み合い、意見交換をすることで、自分の鑑賞文のよさや改善点を見いだしている。 	進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
漢字に親しもう 5 1 時間	第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
文法への扉 2 走る。走らない。走ろうよ。 2 時間	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。		今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。

<p>研究の現場にようこそ 日本に野生のゾウやサイ がいた頃 クモの糸でバイオリン 読書案内 本の世界を広 げよう 1時間</p>	<p>本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書か れていることを知り、自分の考えを広げたり 深めたりする読書に生かしている。(3)エ →教材文を通して研究者の考え方や探求心 に触れ、研究に関わるさまざまな本を読もう としている。</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したこと や考えたことを知識や経験と結び付け、自分 の考えを広げたり深めたりしている。(C(1) オ) →教材文を自分の知識や経験と結び付けて 読み、感想を伝え合っている。</p>	<p>本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書か れていることを進んで知り、今までの学習を生か して感想を伝え合おうとしている。</p>
<p>季節のしおり 冬</p>	<p>抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や 文章の中で使うことを通して、語感を磨き語 彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、 情景を想像している。</p>		<p>伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かし て、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしよう としている。</p>
<p>走れメロス [書く]作品の魅力をまと め、語り合おう 6時間(読⑤書①)</p>	<p>抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義 語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表 す語句などについて理解し、話や文章の中で 使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かに している。(1)エ →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象 がどのように変わるかを考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味など について考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考 え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したこと や考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考 えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →「メロス」の行動や考え方で共感できたところ・ できなかったところを、自分の知識や経験と結び 付けて考えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明 や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写し たりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよ うに工夫している。(B(1)ウ) →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明 確にして作品の魅力を文章にまとめている。 	<p>粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、 学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめ ようとしている。</p>
<p>漢字に親しもう6 1時間</p>	<p>第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の 常用漢字のうち350字程度から450字程度ま での漢字を読んでいる。また、学年別漢字配 当表に示されている漢字を書き、文や文章の 中で使っている。(1)ウ →文や文章の中で漢字を読んだり書いたり している。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いた りしようとしている。</p>
<p>文法への扉3 一字違い で大違い 2時間</p>	<p>単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の 順序や照応など文の構成について理解する。 (1)オ →助詞・助動詞の働きや種類について理解</p>		<p>今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の 働きについて理解しようとしている。</p>

	し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。		
構成や展開を工夫して書く 「ある日の自分」の物語を書く 4時間	話や文章の構成や展開について理解を深めている。 (1)オ →これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り、どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 	粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
言葉3 話し言葉と書き言葉 2時間	話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。 (1)イ →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。		今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
漢字3 送り仮名 2時間	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る 5時間 (話聞②書③)	<ul style="list-style-type: none"> ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ →結論を見出しに、詳細を本文に書くなど、構成を工夫して記事を書いている。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ →壁新聞のテーマを話し合う際に出た意見を、表などを用いてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い、結論を導いている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →伝えたいことの優先順位を考えて、記事の大きさや割り付けを工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫 	粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。

		している。	
木 2時間	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →「愛」,「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。	「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。	進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
学習を振り返ろう 3時間 (読①話聞①書①)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手の心が動くように、卒業生に贈る言葉を選び、その理由を考えている。 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語の働きを理解し、電子メールの下書きを推敲している。 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →根拠を明確にして、卒業生に贈る言葉について書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、物語の設定の違いを捉えている。 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、登場人物の違いによって、どんな展開の可能性が加わるかを考えている。 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →卒業生に贈る言葉を考え、出典や理由を明らかにして、話の構成を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての大川さんの提案を論理の展開に注意して聞き、話し手の伝えたいことを捉えている。 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 	進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。

